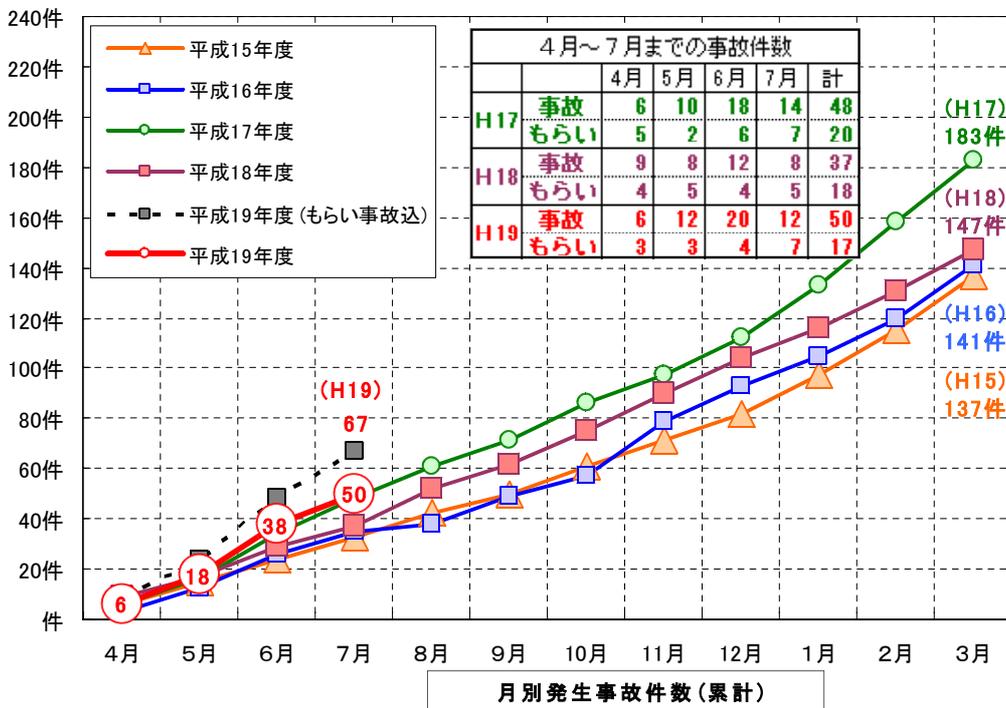


平成 1 9 年度 直轄請負工事の事故発生状況



- ◇ 7 月末現在の発生事故件数は 50 件（速報値）で、もらい事故を含めると 67 件です。
- ◇ 近年、最も多かった平成 17 年度の発生件数よりも増えています。
- ◇ 各事務所におかれましては、小さなミスも疎かにしないで、より一層気を引き締めて、事故防止に努めて下さい。

今年度も建設機械等の事故が多い！！

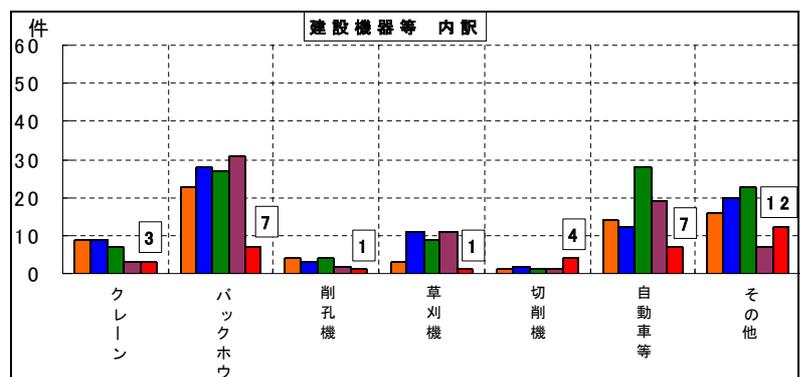
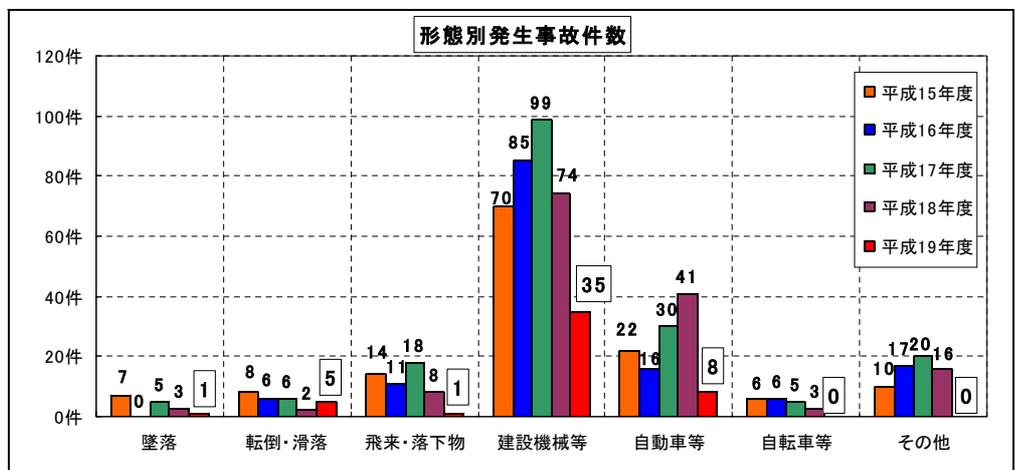
◇ 形態別発生事故件数では、今年度 7 月末までの事故件数 50 件の内“建設機械等”が関係する事故件数が多く、35 件が発生し全体の 7 割を占めています。

◇ 特に、地下埋設物や架空線など第 3 者損害事故が多く、7 月までに 17 件発生しています。

◇ “建設機械等”の内訳では、バックホウによる事故は 7 件発生しており、全て埋設物あるいは架空線の損傷事故に関係しています。

◇ さらに、不整地運搬車両の転倒事故による死亡災害が発生しています。

◇ 建設機械等の事故防止に努めて下さい。





台風（暴風・豪雨）に注意・警戒！！



◇熱帯低気圧は、熱帯の海上で発生する低気圧ですが、最大風速（10分間平均）がおよそ17m/秒以上になると「台風」と呼びます。

◇台風は、強風と共に大雨を伴い、風水害、高潮、土砂崩れなどの災害をもたらし、時には尊い人命をうばうことがあります。

◇工事現場では、台風などの気象情報の収集など平素から十分に警戒し、被害が予想される危険箇所について、事故防止対策を講じるなど安全管理に努めて下さい。



《 事 故 事 例 》

【風に関する事故】

○工事保安施設等が風により車道へ倒壊・飛散したために、一般通行に影響を及ぼした。

〔防止対策(案)〕

☆工事用フェンス、バリケード、工事標識・看板等が倒壊・飛散しないように重しをのせ、番線やロープ等で堅固に連結しておく。

《土砂災害の主な前兆現象》

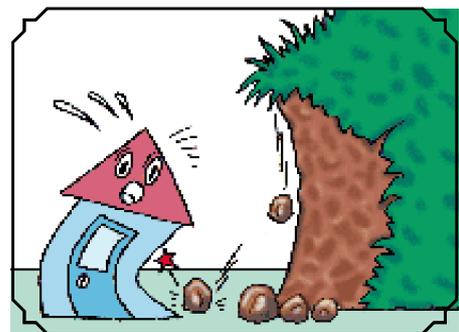
☆「雨が降っていないのに川の水が濁る」、「雨の割には谷の水の量が多い」、「地鳴りがする」といった現象があるときは鉄砲水や土砂崩れのまえばれですので、早急に現場を離れ安全な場所に避難するよう心がけましょう。

【雨に関する事故】

○仮舗装等の剥離、わだち掘れによる路面段差により、一般車のホイール損傷や単車等が転倒する等、第三者へ影響を及ぼした。

〔防止対策(案)〕

☆仮舗装は十分に締固め、舗装や路盤材には良質な材料を用いるなど、不陸の防止に努める。
☆巡回点検を密に行い、保安施設・注意喚起看板等の設置状況を確認する。



9月も厳しい残暑！ 熱中症に注意！！

☆水分、塩分の補給のためのスポーツドリンクなどや身体を適度に冷やすことができる氷、冷たいおしぼりなどの物品を備え付けよう！

☆日陰などの涼しい場所に休憩場所を確保しよう！！

☆万一、熱中症が起こったら、衣類をゆるめて安静にし、スポーツドリンクなどを与えましょう！！！！

